

NIKKEI DESIGN

ミラノサローネ解説イベント、開催！

6月27日(木)、ミラノサローネをはじめ世界のデザイントレンドを徹底分析する「ワールド・デザイントレンドセミナー」を開催します。ぜひご参加ください。
詳しくはこちら → <https://nkb.jp/nds190627>

プレゼンテーションで見たように、A.I. シリーズはAIによる設計アルゴリズムを駆使して開発された。例えば、インジェクション成型による製造方法は通常の製品と変わらないが、材料を型の中に限(くま)なく注入できるかどうか、その強度に問題がないかどうか、といった部分をAIが事前に計算してから試作品を作るため、何度も作り直す工程が省ける。同社では通常、新製品開発に2年以上かけることが多いが、今回のA.I. シリーズは18年秋に着手して19年4月に完成した。試作のための時間を約半分以上削れたことになる。

「人手に依存していた工程ではなく、機械を動かす工程が減った。社内で設定している各種試験はこれまで同様に実施したので、AIが人員に取って代わるとは考えていない。デザイナーが常に関わっていなければ新製品は生まれなし、新技術と新素材を研究して取り入れていく方針も継続していく」(ルーティ氏)

今回はスタルク氏との協業を希望したオートデスクの意向に基づくプロジェクトだったため、カルテルは投資していないが、将来的には、AIを導入した製造ラインを設ける考えもあるという。

この新作チェアは話題性を狙ったサブライズに終わらせず、今年6月には色数を増やして発売する予定だ。AIの根幹を担ったオートデスクにとっても、初めての家具開発に十分な手応えを感じており、次の共同プロジェクトを進める可能性も濃厚ようだ。

ミラノサローネという大舞台で世に送り出された「AIを駆使するデザイン開発」が、今後どれほど定着するか。無視できない動向になっている。

高橋美礼 (デザイナーナリスト)

4月9日ミラノサローネ会場のカルテルのブースにて行われたプレゼンテーションに登壇したデザイナー、フィリップ・スタルク氏とカルテル社クラウディオ・ルーティ社長。人工知能とやりとりしながらデザインする様子を演じてみせた。人工知能によるアルゴリズムに従って完成されたチェアを、スタルク氏は「A.I. シリーズ」と命名。6月に発売する予定で量産化を進めている。会場で発表されたグレーの色調に加えてカラーバリエーション展開も見込まれる



(写真提供/ Kartell)



サイトではもっと記事をお読みいただけます。
QRコードからアクセス